

真田宝物館だより

第28号

六^む連^{れん}銭^{せん}

松代藩の大名行列に迫る!!



槍鞘

平成23年3月発行

〒381-1231 長野市松代町松代4-1
(真田宝物館)

参勤交代と大名行列

参勤交代はもともと將軍に対する軍事的奉公であり、禄高に合わせた家臣や槍・刀・鉄砲などの武器を携えた、臨戦態勢の大名行列で行軍しました。しかし時代が進むにつれて、諸大名は大名行列を家の威光を示す場として華美と規模を競うようになりました。

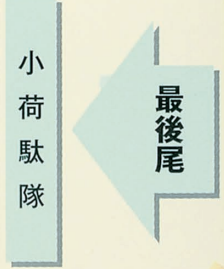
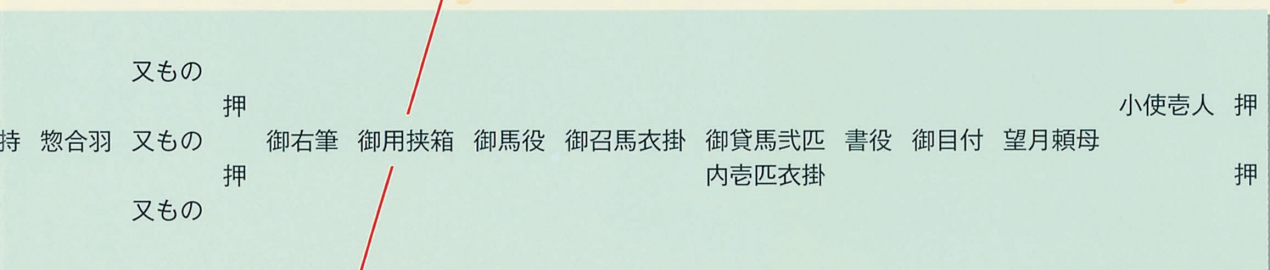
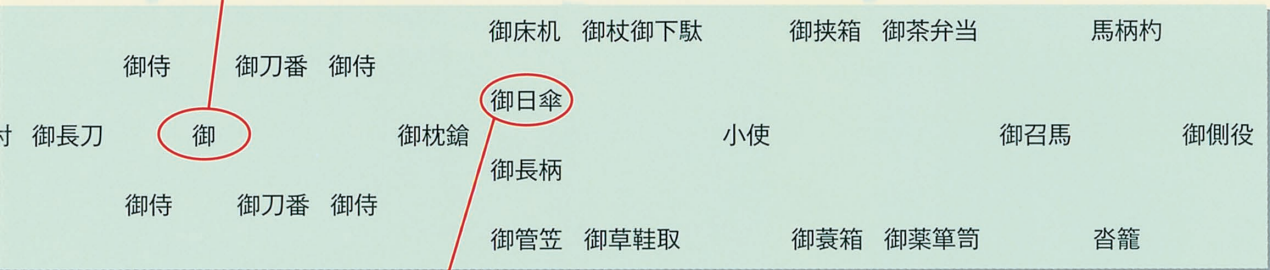
大名行列では、様々な道具が携行されました。藩主の具足・鉄砲・槍などの武器の他、寝具・雨具・提灯・炊事道具・沓駕籠・衣類などを入れた長持や挟箱など生活用品も携行されました。道具は大名の格式や禄高によって使用できる数や素材に決まりがありました。中でも槍は武力の象徴として特に尊重されました。槍鞘は羅紗・革・羽毛などで飾ります。大名家の格式によって槍鞘の形や使われる素材に細かい決まりがあり、槍の形や数で何藩の何家とすることがすぐにわかりました。文政期の大名や旗本ごとに家紋・石高・格式・行列の指物などをまとめた『文政武鑑』（柏書房）によると、真田家は十文字槍と山鳥の毛で飾られた槍を用いていたことがわかります。藩主の駕籠より前方にこの槍をたてて行軍しました。真田宝物館には、実際に十文字と山鳥の毛で飾られた槍鞘や、道中に使用されたであろう道具が多く伝わっています。



七代藩主 真田幸専

真田家の大名行列を描いた絵図は、残念ながら伝来していません。しかし、その様子は「御帰城御供一卷（文化三年）」という史料から伺うことができます。ここには、七代藩主・真田幸専が文化三年（一八〇六）に江戸から松代へ帰国する時の隊列の構成が書かれています。

この図には前線部隊や隊列の最後につくはずの小荷駄隊が書かれていないものの、隊列中核部分の様子をうかがうことができます。この史料をもとに、真田家の大名行列の構成がどのようなものだったのか、下にご紹介します。



傘・傘袋
 長柄傘にも袋入り傘・爪折傘・蛇の目傘・参内傘・台傘など様々な種類があり、家格や禄高によって使用できるものが決められていました。真田家は代々武鑑之間詰めであり、袋入傘を用いていたと考えられます。
 (市岡正一『徳川盛世録』より)

行列の構成

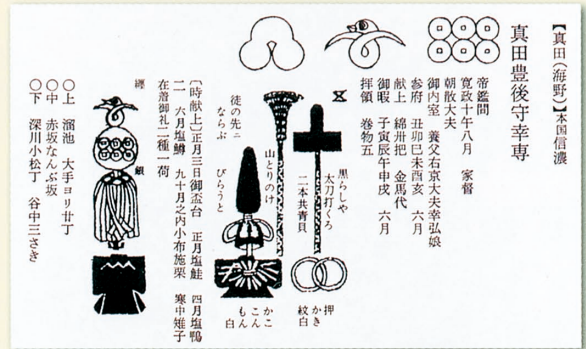
行列の構成は基本的に、前線部隊として鉄砲足軽部隊・弓足軽部隊・長柄を持った槍の者の部隊、次に藩主のいる本陣、騎馬の家臣達が形成する騎馬隊、そして最後に小荷駄が兵糧や物資を馬に積んで行くという形になっています。大名家によって多少の違いはありますが、これが基本的な陣形として行列が構成されていました。

(根岸茂夫『大名行列を解剖する』)

隊列の基本構成

前線部隊		(1) 前線部隊(先手)
鉄砲		鉄砲足軽部隊
弓		弓足軽部隊
長柄		長柄足軽部隊
本陣		(2) 本陣
持組		持組…足軽、藩主の武器管理
徒組		徒組…槍組の歩兵、本陣警衛
中小姓		中小姓…歩兵、藩主警護
藩主		藩主と側近・小姓など
手廻り・小荷駄		道具や日用品などの輸送
惣提		側近や小姓等の家来
騎馬隊		(3) 騎馬隊
騎馬		騎馬の武士とその家来・手廻り
小荷駄		(4) 小荷駄
小荷駄		輸送部隊 夫役・雇いの者

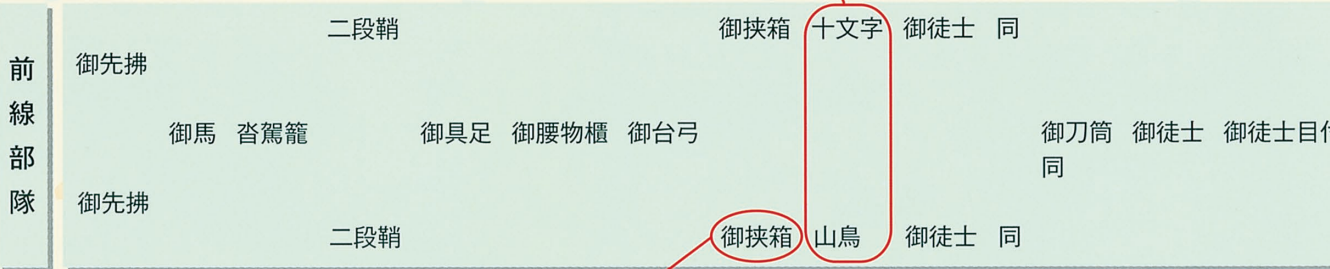
※根岸茂夫『大名行列を解剖する』をもとに作成



『文化武鑑』(柏書房)より抜粋

槍は禄高や家格によって行列で使用する位置やなどが決められていました。藩主の先に置くことを先道具、後に置くことを跡道具、一つを一本道具、二つを二本道具、三つを三本道具などといいます。武鑑や史料からは、松代藩が先道具・二本道具であり、十文字と山鳥の羽毛で飾られた槍鞘を用いていたことがわかります。

先頭



上から

御側御納戸 御用挟箱 同 同 御側用釣筆筒 御弁当釣筆筒 御膳番 御近習御小姓 御医師 三番御長持 六番御長



挟箱・油単

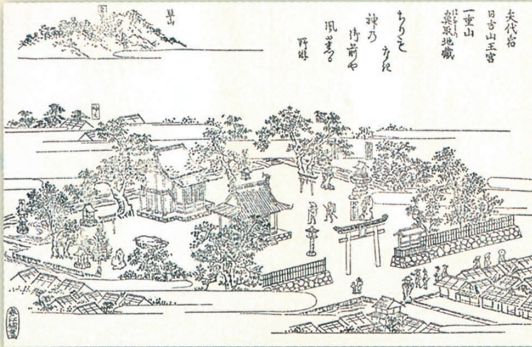
挟箱は家格や禄高によって行列で使用する位置や数などが決められていました。藩主の先に置くことを先箱、後に置くことを跡箱、一つを片箱、二つ並べて持たせることを対箱といいます。御三家(尾張・紀伊・水戸)や仙台藩など約20の藩は、金紋といって挟箱の蓋の左右に金の家紋を入れることを許されていました。資料から、松代藩は先箱・対箱・金紋なしだったことがわかります。先箱・対箱・金紋なしの組み合わせの使用は多く、約90家に使用が許されていました。(市岡正一『徳川盛世録』より)

真田幸専

参勤交代行程(享和三年)

享和2年(1802)、7代藩主・真田幸専は6月25日に江戸を出発し、7月1日には松代へ到着しています。
参勤交代の道中は中山道と北国街道を利用し、おおよそ5泊6日の日程が通例でした。

(下の図は国文学研究資料館所蔵真田家文書い217・い218より作成)

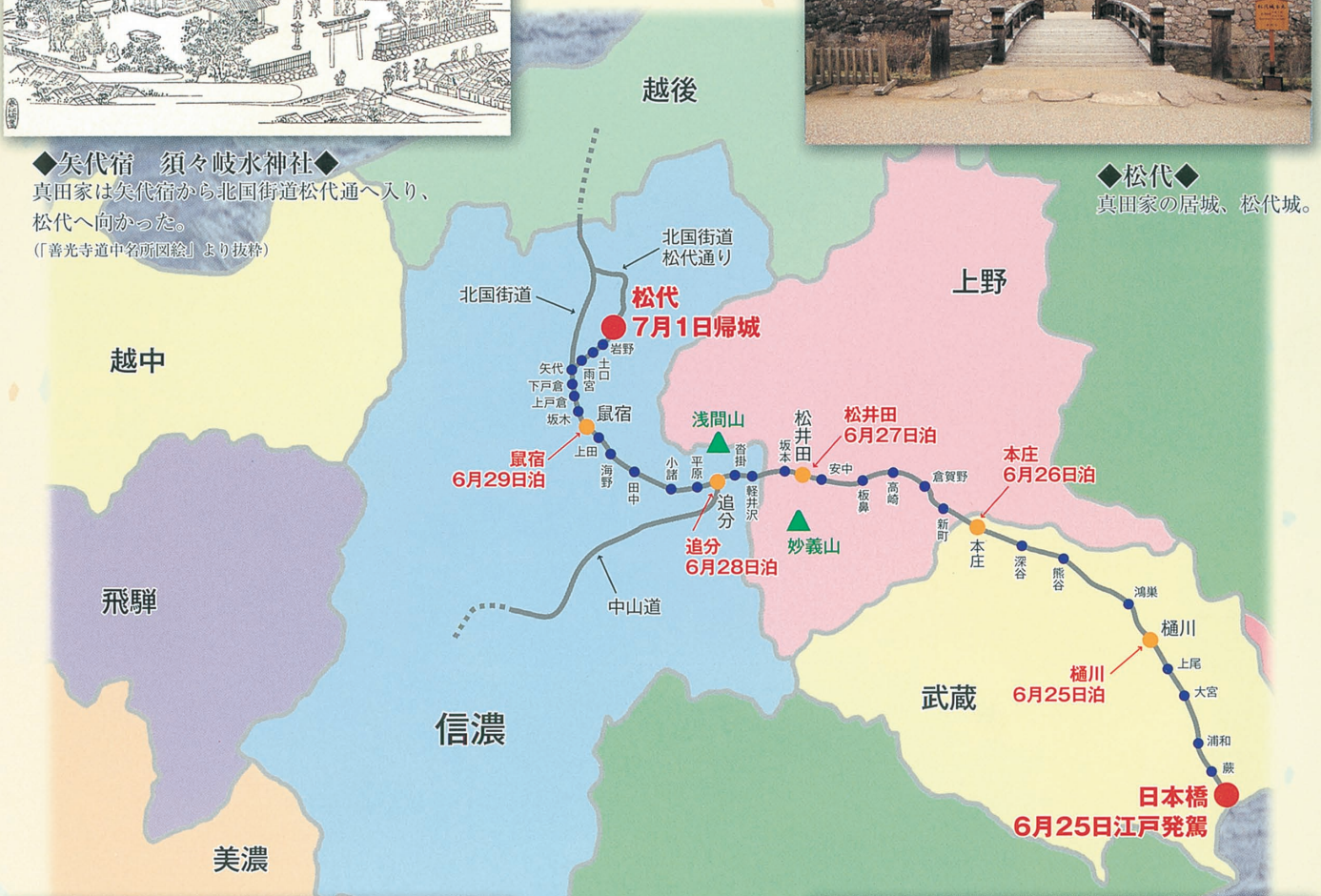


◆矢代宿 須々岐水神社◆

真田家は矢代宿から北国街道松代通へ入り、松代へ向かった。
(「善光寺道中名所図絵」より抜粋)



◆松代◆ 真田家の居城、松代城。



◆鼠宿 岩鼻◆

北国街道の險所といわれた。鼠宿と上田宿の間にあり、山の険しい岩肌が千曲川近くまで迫っている。
(「善光寺道中名所図絵」より抜粋)



◆妙義山◆

幸専は坂本宿に着くと妙義神社の鎮座する妙義山へ代参者を毎回送り、軽井沢宿にて代参者と合流し、妙義神社の守札を受け取っていた。